

東京文化プログラム

MOT 2017秋 FALL
サテライト
Satellite

Connecting Scapes
むすぶ風景

2017年10月7日（土）～11月12日（日）

MOTサテライトについて

古くは松尾芭蕉も居を構え、戦後はオリンピックの聖火が通り、近年ではカフェやギャラリーが活気を見せる清澄白河—東京都現代美術館は1995年の開館以来、クリエイティブで魅力あるこの地で活動を続けてきました。「MOT（モット）サテライト」は、改修休館中の東京都現代美術館が、清澄白河エリアのさまざまな人々や施設の協力を得てまちへ出かける試みです。地域の一員としての美術館が、アートと社会の関わり方を多角的に提案する、新しい都市型アート・プロジェクトを展開します。

2017年春にはその第1回目として、詩人、画家、写真家、建築家など様々な表現手段をもつ作家たちが、住民の皆様の協力のもと、展示やイベントでまちの魅力を掘り起こす「MOTサテライト 2017春 往来往来」を開催しました。

その続編となる今回は、「MOTサテライト 2017秋 むすぶ風景」として、このまちの多彩な営みにある背景や、まちが経てきた歴史的変化の軌跡をたどります。多様な人々が集ってきたこの地域の活力や風景を、出品作家たちが作品展示やワークショップ、まち歩きやトークイベント等を通じてむすび、清澄白河との新たな出会いを創出します。また今回は、新たに上野にも会場を広げ、フランスのカディスト・アート・ファウンデーションとの共同企画による展示も行います。

まちや人々と関わり、新たな表現を立ち上げる、異なる地域、異なる専門領域で活躍してきた作家や研究者たち。その作品によってむすばれる風景は、どのようなものなのでしょうか。ぜひまちを巡り、本展をお楽しみください。

展示会場と内容

今回は「清澄白河エリア」に加えて、新たに上野会場でもMOTサテライトを開催します。

—展示、ワークショップ、パフォーマンスなど多彩なプログラムを展開します。

清澄白河エリア

第1回目に引き続き、清澄白河エリアでは、町工場跡地等を利用した展示拠点「MOTスペース」（6か所）にて主な展示を、店舗や文化施設の一部をお借りした「MOTスポット」（9か所）にて小規模な展示を展開します。

展示は現代美術の作品を中心にした「まちの風景をえがく」と、体験型作品を中心とした「体験からめぐる清澄白河」の2つのカテゴリーに分けて紹介します。

まちの中心には、MOTサテライトの期間限定「案内所」もありますので、まずは気軽にお立ち寄りください。

地域のクリエイティブな拠点「地域パートナー」で行われる多彩な活動にも注目です。

上野会場（東京藝術大学）

清澄白河エリアに加えて、今回は上野にも会場を広げます。東京藝術大学上野キャンパス内 アーツ・アンド・サイエンス・ラボも、もう一つの「MOTスペース」として、展示および関連イベントを多数実施します。

アーツ・アンド・サイエンス・ラボでは、パリにある芸術財団、カディスト・アート・ファウンデーションとの共同企画により、「なさそうで、ありそうな」展を開催。現代美術を通じて地域や社会、人々と関わることの意義やそのあり方について考察し、議論し、実践するための展示やイベントを展開します。

* 清澄白河エリアの各拠点と上野会場はA Rスタンプラリー「MOT Navi」で結ばれます。

本展のみどころ

3人の企画者による地域をめぐる3つのアプローチ バリエーション豊かな作家たちによる「むすぶ風景」が広がります

1. 現代美術で見る清澄白河の風景

—①まちの風景をえがく

地域のリサーチや人々との交流から、水、建物、音、人々のコミュニティなど清澄白河を形づくるものを主題に、そこから見えてくる様々な風景を、国内外で活躍する現代美術作家たちが映像や立体作品にして展示します。

2. インタラクティブな体験型作品でたどる清澄白河

—②体験からめぐる清澄白河

教育機関所属の多才なアーティスト・研究者が、地域や清澄白河というまちに取り組み、様々な視点から、テクノロジーを用いた体験型作品を含むプロジェクトを、清澄白河エリアで紹介します。

3. フランスの芸術財団カディスト・アート・ファウンデーションとの共同企画

—上野会場 アーティストと人々の対話をもたらすもの

異なる時代や国に生きる5名のアーティストたちが、映像制作やパフォーマンスなど、それぞれの表現言語を用いつつ、自らの社会や人との関係性のあり方について人々と共に考察する作品を上野の東京藝術大学内で紹介します。

参加作家

清澄白河エリア

下道基行

鎌田友介

Atsuko Nakamura

守章

石塚まこ

東京藝術大学芸術情報センター 清澄白河プロジェクト

東京大学 廣瀬・谷川・鳴海研究室

のらもじ発見プロジェクト

錯視ブロックワークショップグループ

上野会場（東京藝術大学）

エリック・ボードレール

ユリアス・コラー

ミリアム・レフコウィッツ

ウェンデルリン・ファン・オルデンボルフ

富井大裕

1. MOTサテライト案内所オープン！

開場日/時間：木・金・土・日曜日と祝日 11:00-18:00

住所：江東区三好2-17-11

今年は新たにMOTサテライトの期間限定「案内所」がオープンします！

清澄白河エリアにある深川資料館通り商店街の中ほどに設けるこの案内所では、スタッフがMOTサテライトの巡り方や会期中のイベント情報を詳しくご案内します。地域の人たちが発行する清澄白河の各種マップやパンフレットもそろえて、MOTサテライトとともに、まち歩きを楽しむための情報をお届けします。

また、10月14日からの土・日・祝は「トーク&まち歩きクルーズ ガイドとめぐるMOTサテライト」もここからスタートです！

なお、この「案内所」では、地域をテーマとした今後のプロジェクト紹介を展示します。

- ・「防災アーカイブ」（仮称） 東京大学地震研究所
- ・「無限回廊 - Unlimited Corridor」 Unlimited Corridor制作チーム/ 東京大学廣瀬・谷川・鳴海研究室
- ・「Hiyoshi Jump」 ユニティ・テクノロジーズ・ジャパン合同会社/大阪大学大学院情報科学研究科/慶應義塾大学大学院メディアデザイン研究科

2. AR道案内アプリ「MOT Navi」でまち歩き

「MOT Navi」は、スマートフォンやタブレット等で各会場を巡って楽しむAR ナビゲーションアプリです。

QRコードでアプリをダウンロードし、MOTスペース入口にあるマーカーにアプリをかざすと、簡単にスタンプラリーが楽しめます。

清澄白河エリアの「MOTスペース」や、上野会場を巡ってスタンプを集めると、MOTサテライトにちなんだオリジナルグッズ（先着順、なくなり次第終了）がGETできます。

詳しくはこちらへ

<http://motnavi.com/index.html>

清澄白河エリア：参加作家紹介

① まちの風景をえがく

地域拠点や町工場跡地を利用した空間で、国内外で活躍する現代美術作家たちが、地域をリサーチし、その記憶や人々の営みを可視化するインスタレーションを展開します。

下道基行

会場：MOTスペースA

(深川資料館通り商店街協同組合事務所 1F / 江東区三好3-8-5)

1978年岡山県生まれ、名古屋市在住。

フィールドワークやリサーチを行いながら、日常の風景の中に埋もれている人々の営みや記憶をテーマに、テキストや写真、オブジェを使って見えない「かたち」を顕在化させるプロジェクトを行っている。

2010年から、路上観察と散歩とスナップを混ぜたようなワークショップ「見えない風景」を日本各地で実施している。まちを歩いて見つけたモニュメント化されていない「目印」を言葉で記録し、独自の地図をつくり、見慣れた風景の別の姿を浮かび上がらせる試み。

本展では「深川編」として伊能忠敬や間宮林蔵に縁のあるこの土地でワークショップを行い、その記録映像を展示する。

鎌田友介

会場：MOTスペースD (三好の旧製本所 / 江東区三好2-15-3)

1984年神奈川県生まれ、横浜市在住。

近代絵画における透視図法への関心から出発し、近年は建築・家屋をめぐるリサーチに基づいた立体的な構築物と写真・映像資料からなる作品を発表している。日本家屋やモダニズム建築の構造を思わせるグリッドやフレームワークを金属や木材で構成し、見る角度や位置によって複数の視座や次元が交差するインスタレーションが特徴。

本展では、地域をリサーチし、この地にあった家にまつわる思い出や個人的な記憶をテーマに、新作インスタレーションを制作。

Atsuko Nakamura

会場：MOTスペースE (三好の旧建具屋 / 江東区三好2-2-5)

1982年石川県生まれ、横浜市在住。

自然と人々の営みの新たな可能性を探求し、流木や塩の結晶など自然の現象と協働する作家。塩の結晶を用いた立体作品や、流木を使ったインスタレーションを国内外で発表している。

本展では、木場から新たな文化が生まれる場へ移りゆくまちの変化を主題にした新作のインスタレーションを発表。穏やかな地域の変化をゆるやかな川の流れと重ね、風や地形・水棲生物の動きなど様々な要素により刻一刻と変化する水面をうつしだすような新作のインスタレーションを、木材と記録映像等を用いて発表する。会期中には作家によるワークショップを予定。

守章

会場：MOTスペースF (平野の旧印刷所 / 江東区平野1-9-5)

1996年双子の兄弟ユニットとして活動開始。現メンバーは弟の守喜章（東京都在住）。

映像、写真、音など様々なメディアを使用したインスタレーション作品で自己と他者の距離や集団・社会、公共空間に存在する見えない境界を探っている。近年の代表的なプロジェクトとして、自治体ごとにながれる夕方の放送(防災無線)の音声をアーカイブした《終日23区》などがある。

本展では、平野地区にある印刷所跡を舞台に、かつてあったであろう想像上の生活音がよみがえる新作のサウンドインスタレーションを発表。生活の気配が現在の風景と重ね合わされる。

清澄白河エリア：参加作家／プロジェクト紹介

石塚まこ

会場：MOTスポット 清澄白河エリアの店舗、施設等9か所(予定)

1974年神戸市生まれ、パリ、スウェーデンを拠点に活動中。

国内外の様々な場所で暮らし、自身と、それを取り巻く環境にある心理的・社会的距離に着目して思索・制作を続けている作家。

本展では、まちの観察や人々との交流で得たインスピレーションを自身の経験とむすび、その思考の地図をまちに開かれた窓にドローイングしていくプロジェクトを展開。国外で生活する作家が、海外にルーツを持ち、清澄白河エリアで学び、働き、暮らしている人々を「案内役・媒介者」としてまちを考察し、日々の営みに現れる線の引き方や越え方に地域の気質や価値観を見出す試み。会期中、窓に描く思考の地図の公開制作を予定。その他、江東区立深川図書館でも小規模な展示を行う。

② 体験からめぐる清澄白河

今回のMOTサテライトでは、教育機関に所属するアーティスト・研究者たちが、地域や清澄白河というまちに取り組み、様々な視点から、テクノロジーを用いた体験型作品を含むプロジェクトを清澄白河エリアで紹介します。

のらもじ発見プロジェクト

会場：MOTスペースC (旧喫茶店 (仮称) / 江東区三好3-4-7)

下浜臨太郎、西村斉輝、若岡伸也らによる、古い町並みや看板に残る個性的で味のある素敵な文字たちを「のらもじ」と名づけ、発見→分析→フォント化し、その魅力を再発見するプロジェクト。データとしてきれいに整えられたフォントにはない、手書き文字の不思議な愛らしさや人間味、風雨にさらされ素材と馴染んだ民藝的な魅力をたたえる「のらもじ」。

本展では旧喫茶店の空間を使い、プロジェクト紹介やのらもじTシャツによるインスタレーションとして展示する。

東京大学 廣瀬・谷川・鳴海研究室

会場：MOTスペースB (グランチェスター・ハウス / 江東区三好3-8-5) 1階

案内所 (江東区三好2-17-11)

教授：廣瀬通孝、特任准教授：谷川智洋、講師：鳴海拓志から成る東京大学大学院情報理工学系研究室として、バーチャルリアリティ技術を端緒としたインタフェース技術について多様な研究を国際的に展開する。人工現実感・拡張現実感技術、五感を扱うインタフェースやライフログ技術、ビッグデータ処理技術などの基盤技術開発に加え、技術によって生まれるコンテンツや社会展開も研究対象とし、技術を文化施設やパブリックアートに取り入れて新しい表現領域の確立を目指すプロジェクトや、高齢者のスキルを社会に役立てるための高齢者クラウドプロジェクトなどに取り組む。

本展では、MOTスペースB 1階にて英国と清澄白河を往来する地域のオーガナイザー／アーティストとしてギャラリー (グランチェスター・ハウス) を主宰する志村博 (1949年東京生まれ) とコラボレーションし、体験者が手にしたタブレット画面の中で、江東区の歴史的な風景と現在の風景が溶け合いむすばれる「思い出のぞき窓」シリーズを、写真+VR作品として展示する。今回は、清澄白河エリアの中でも、水をたたえた「木場」がかつてあった頃の風景 (現・東京都現代美術館付近) や、オリンピックの聖火がこの地域を通った1960年代に主にスポットをあて、参加体験型展示を展開する。また案内所でもプロジェクト紹介展示を行う。

清澄白河エリア：参加作家／プロジェクト紹介

東京藝術大学芸術情報センター 清澄白河プロジェクト

東京藝大芸術情報センターは、学内共同利用施設として、上野・取手・横浜・千住・奈良を結ぶキャンパス全体（美術／音楽）を対象に、情報メディアやファブリケーション機材を用いた講義・ワークショップ、情報技術を用いた情報発信サポート等を行っている。学内の情報化、各部局との連携、クラウド化やアーカイブ化などの情報リテラシーを推進し、セキュリティの向上、オープンネスの推進、情報発信のリテラシーというポリシーにより運営されている。

教職員 = 古川 聖（センター長/教授）、大谷 智子（助教）、

（芸術情報研究員）…嘉村 哲郎、中村 美恵子

（教育研究助手）…鈴木 葉音野／田部井 勝／和田 信太郎／網守 将平／藤田 佑樹／肥後沙結美

本展では、同センターに集まった才能のショーケースとして、教職員がまちや人々をテーマとして取り組んだ小規模作品の展示（プロジェクト紹介スタイル、6点）を行い、併せて「メディアアート&プログラミングI・II」履修学生が「むすぶ風景」をテーマにコンピュータ言語processingで制作した優秀作品約15点を紹介する。

■展示参加メンバー

会場：MOTスペースB（グランチェスター・ハウス / 江東区三好3-8-5）2階

鈴木葉音野／田部井勝彦／網守将平／藤田佑樹／肥後沙結美、藤木淳（現・札幌市立大学准教授、前・東京藝術大学芸術情報センターJST研究員）、「メディアアート&プログラミングI・II」履修生チーム

※詳細な作家資料は、当館ホームページ「MOTサテライト 2017秋 むすぶ風景」のアーティストページをご覧ください。

藤木淳

1978年生まれ。札幌市立大学人間情報デザインコース准教授。研究者として多数の作品を制作し、錯視によるインタラクティブ作品《OLE Coordinate System》（第10回文化庁メディア芸術祭アート部門優秀賞）をベースにしたPSP/PS3対応ゲーム「無限回廊」（ソニー・コンピュータエンタテインメント）、人間と物理の新たな関係性を築く研究で高く評価される。独立行政法人科学技術振興機構さきがけ専任研究者、東京藝術大学芸術情報センターJST研究員などを歴任。

パフォーマンス/ワークショップ

会期中に、清澄白河の建築や空間が楽譜に自動生成されるプロジェクトや、まちのかたちを再発見する「サッカク・ブロック・ワークショップ」をそれぞれ開催する。

（※開催概要は「関連プログラム」欄を参照）

■パフォーマンス/ワークショップ参加メンバー

古川聖・藤井晴行・濱野峻行・小林祐貴「Architecture dreams Music / 建築が夢見る音楽」

パフォーマンス実施場所：龍徳山 光厳教寺 雲光院（江東区三好2-17-14）

古川聖（1959年東京都生まれ）、藤井晴行（1959年東京都生まれ）、濱野峻行（1985年東京都生まれ）、小林祐貴（1987年愛知県生まれ）によるプロジェクト。建築と音楽の関係を、構造や素材のみならず、構造と認知のレベルにおいてつなぐ方法を模索する。地域に実在する建築空間から音楽表現を同時生成するコンピュータプログラムを開発し、部分的に発展させつつプロトタイプによる演奏を行い、建築空間と音楽をインタラクティブにつなぐ多次元のマッピングを行う。

錯視ブロックワークショップグループ

ワークショップ実施場所：江東区立白河こどもとしゃかん

多分野の研究者やデザイナーが参加して、錯視ブロックを使ったワークショップを開発しているグループ（代表：東京藝術大学・大谷智子）。錯視ブロックとは、その表面の模様の組み合わせ方で多様な「錯視」を生じさせるブロックである。立体でありながら紙の上に書いただまし絵のような印象を与える不思議な立体を作成できる。この立体を見る角度が変わると、目に映る模様の組み合わせの変化とともに、錯視の生じ方が変化する。親子・小さな子どもから年配の参加者まで、年齢・場所・時間に応じて楽しめるワークショップを美術館や学校など多数の会場で開催し、現在に至る。

上野会場：参加作家紹介

アーティストと人々との対話をもたらすもの

カディスト・アート・ファウンデーションとの共同企画

会場：MOTスペースG（東京藝術大学上野キャンパス アーツ・アンド・サイエンス・ラボ /台東区上野公園12-8）

地域とのつながりに根ざしたMOTサテライトでは、これからの文化の創造を担う学生や若手作家の育成を目指し、アーティストが人と関わりながら制作することの意義やその手法について考えます。東京藝術大学で開催される本展示では、2000年以降の優れた世界的なコレクションを所有し、各国組織との連携し展示や教育活動を行ってきたカディスト・アート・ファウンデーションと協働します。

展示は「なさそうで、ありそうな」と題し、映像やパフォーマンス、インスタレーションと幅広いメディアを用いながら、それぞれのアーティストが置かれた社会や時代を人々と共に探り、問いなおし、刷新する可能性を希求しているのかを提示します。

エリック・ボードレル | Eric Baudelaire

1973年アメリカ生まれ、フランス在住。

ある具体的な事象や人物に関する綿密なリサーチに基づき、かつ単一の視点や解釈に抗う映像作品は、事実、記録、記憶といった物語がいかに生成され、受容されるのかを問う。作品はニューヨーク映画祭、トロント国際映画祭をはじめとする映画祭や、多くの国際展で上映されているほか、国内では京都国立近代美術館、ヨコハマトリエンナーレ等で発表されている。

本展では、パリ郊外にあるコレージュ（中等教育）の生徒と共に4年にわたって続けて行っている映像制作プロジェクトを発表する。学校や社会問題について、あるいは映像制作に関わることについて、議論やワークショップを重ねる過程で、生徒たちが自らの生きる環境や、自己を表現することについてより意識的になってゆく過程が捉えられている。

ユリアス・コラー | Július Koller

1939年チェコスロバキア（現スロバキア）生まれ、2007年没。

旧東ヨーロッパにおける1960年代以降の前衛運動のアイコン的作家。アクション、オブジェ、テキスト、絵画などあらゆるメディアを用い、当時のチェコスロバキアの社会体制や、西欧主義的な美術のメインストリームに対して、ユーモラスな作品で批評的に応答した。中でも、作品モチーフとして頻繁に取りあげられたのがテニスや卓球。彼は展覧会を行う代わりに、チョークで描いたコートで人々とテニストーナメントを行ったり、テニスコートを平面に描いたりした。ゲームを成立させる「フェア・プレイ」のあり方と、当時の実社会を対比させて考える目的もあった。

本展では、そのようなアクションの記録画像を中心に展示を構成する。

上野会場：参加作家紹介

ミリアム・レフコウィッツ | Myriam Lefkowitz

1980年フランス生まれ、同地在住。

人々が空間や身体性についてどのように注意を向け知覚しているのかを探るため、観客とパフォーマーが直接的に対峙し行うパフォーマンス作品を世界各地で発表してきた。作品はフランス国内のみならず、アルゼンチン、ドイツ、アメリカなどで発表されている。

本展で展示する《Walk, hands, eyes (a city)》は、第55回ヴェネチア・ビエンナーレ含め、世界各国で開催されているパフォーマンス作品で、参加者1人につきパフォーマー1人の2人1組で行われる。参加者は1時間、目を閉じ、ガイドとなるパフォーマーに導かれて歩く。音、におい、触覚など、視覚以外の感覚を研ぎ澄ませ、かつ、そこから織り成される想像を通じて、まちの空間を体験するというもの。本パフォーマンスは清澄白河にて開催予定。上野の展示会場では、音声とテキストによるミニマムなインスタレーションを行う。

ウェンデルリン・ファン・オルデンボルフ | Wendelien van Oldenborgh

1962年オランダ生まれ、同地在住。

人々の社会的関係性や主体形成の背景を多角的に検証するため、ある具体的状況を取り上げてのワークショップや協働に基づいて映像や映像インスタレーションを制作してきた。

2017年のヴェネチア・ビエンナーレ、オランダ館代表でもある。

本展で展示する《Après la reprise, la prise (After the re-take, the take)》は、半年に渡る反対運動にも関わらず強制解雇されたベルギーの女性労働者たちの一部が、その経験を演劇化し、自ら演じたことが背景となっている。その女性たちと、これから社会に出てゆく学生たちが、自らの経験や知識を共有し、変わりゆく労働条件や個として声を上げることについて対話を行った。使われなくなった裁縫の教室で行われたその様子が、スライド・プロジェクターによって映し出され、彼らの会話が音声と字幕で再生される仕組みとなっている。

富井大裕

1973年新潟県生まれ、神奈川県在住。

並べる、重ねる、折る、つなげるなど、作家が決めたルールに則って、身の回りにある見慣れたモノに、新たなあり方や見方を提示する作品を通じて、「作る」とはいかなる行為なのか、そこでどのような思索が行われるのかを問い続けてきた。

本展では、富井はここ数年間行ってきた《body work》シリーズの#1から#22までを展示する。本作品において観客は作品を観るだけではなく、作品を構築する身体であり主体となりうる。作家が作成した指示書に基づき、台座に敷かれたマットレスの上で、自らと相手の身体を用いてある形態を作る。それを通じて、実用性のないカタチ、目に映るものを作るという行為においてどのような感覚や考察が生成するのか、また、創造するとはどのような行為なのかについて考えさせるもの。

関連プログラム

* 下記のプログラムはすべて参加無料です。

石塚まこ公開制作

作家がMOTスポットの窓に内側から鏡文字で思考の地図を描いていく様子をご覧ください。

2017年10月8日（日）13:00-17:00予定

会場：MOTスポット

予約不要。実施場所等の詳細は美術館ホームページでお知らせします。

ミリアム・レフコウィッツによる参加型パフォーマンス 「Walk, Hands, Eyes(Tokyo)」

参加者は目をつぶり、ガイドとなるパフォーマーに導かれながら会話をせず、静かに清澄白河のまちを1時間歩きます。視覚以外の感覚や想像が織り成すまちを体験し、その身体的経験を共有するための参加型パフォーマンスです。

2017年10月14日（土）、15日（日）13:00-15:00

定員：10名（先着順）

予約不要。参加方法、実施場所等の詳細は美術館ホームページにてお知らせします。

参加作家によるアーティストトーク

守章、鎌田友介、Atsuko Nakamura、ミリアム・レフコウィッツ、田部井勝彦（東京藝術大学芸術情報センター 清澄白河プロジェクト）がそれぞれの作品について語ります。

2017年10月14日(土) 15:30-17:30

会場：三好地区集会所 ※会場は都合により変更になる場合がございます。

定員：40名（先着順）

予約不要。当日直接会場にお越しください。

Atsuko Nakamuraによる水のプリントワークショップ

水の模様をインクで紙に写し取ってしおりやブックカバーなどを作成します。

2017年10月22日(日)14:00-16:00

会場：MOTスペースE(三好の旧建具屋) 向かいの建物

予約不要。出入り自由のオープンワークショップ

ウェンデリン・ファン・オルデンボルフによるトーク・イベント

現在の社会的状況や歴史のあり方について、社会のさまざまな立ち位置の人々といかにもに考え、映像表現を行ってきたのか、ゲストを交えてトークを行います。

2017年10月28日（土）15:00-17:00

会場：東京藝術大学上野キャンパス アーツ・アンド・サイエンス・ラボ 4F 球形ホール

定員：50名（先着順）

予約不要。当日直接会場にお越しください。

錯視ブロックワークショップグループ「サッカク・ブロック・ワークショップ」

ブロックを組み立てながら、だまし絵や知覚のトリックで知られる「錯視」の立体を作り、撮影を楽しむワークショップです。

2017年11月3日（金・祝）・4日（土）14:00-16:30

会場：江東区立白河こどもとしょかん

定員：10組（予約不要、各回とも先着順）

当日直接会場にお越しください。

関連プログラム

*下記のプログラムはすべて参加無料です。

ARまちあるきツアー 清澄白河 / MOTサテライトをめぐる

AR (拡張現実感) を使って現在と過去の風景をタブレット端末に映し出し、ガイドの解説を聞きながらMOTサテライト会場周辺を散歩します。江東区で人気を博したツアーの番外編をぜひお楽しみください。

2017年11月3日 (金) 10:00-11:30

定員: 10組 小学生以上 (小学生は保護者同伴)

申込方法: 往復ハガキまたはメールに

①件名「11/3 ARまちあるき」②氏名・年齢③同行者氏名・年齢 (2名まで)④住所⑤電話番号 をご記入の上、下記までご郵送・送信ください。

応募締切: 2017年10月25日 (水) 必着

宛先: (E-mail) arwalk@mot-art.jp

(往復ハガキ) 〒135-0016 東京都江東区東陽7-3-5 東京都現代美術館リニューアル準備室 AR係

希望者多数の場合は抽選となります。

当選した方へは当日の集合場所等詳細をE-mailまたは返信ハガキにてご案内いたします。

富井大裕によるイベント「時間の彫刻」

《body work》の新作を、会場付近で不定期に展示します。

2017年11月4日 (土) 11:00-17:00

会場: 東京藝術大学上野キャンパス アーツ・アンド・サイエンス・ラボおよびその周辺

当日直接会場にお越しください。

パフォーマンス

古川聖・藤井晴行・濱野峻行・小林祐貴

「Architecture dreams Music / 建築が夢見る音楽」

清澄白河地域に由来する歴史的な建築空間から音楽表現を自動生成し、生み出された楽譜の演奏を行います。

2017年11月5日 (日) 15:00-16:00

会場: 龍徳山 光厳教寺 雲光院 (江東区三好2-17-14)

定員: 50名 (先着順)

予約不要。当日直接会場にお越しください。

下道基行「見えない風景/深川編」ワークショップ

まちを歩いて目印を見つけ、言葉の地図をつくるワークショップです。

2017年11月11日 (土) 10:00-16:00

場所: 清澄白河エリア

定員: 15名 (事前申込制)

希望者多数の場合は抽選となります。イベントの詳細、申込方法は美術館ホームページにてお知らせします。

トーク&まち歩きクルーズ「ガイドとめぐるMOTサテライト」

当館のガイドスタッフが参加者 (1~5名程度) と一緒に清澄白河のまちを歩きながら作品の見どころをご案内するツアー。実施時間帯に案内所までお集まりください。

先着順でツアーが出発します。

2017年10月14日 (土) 以降の土、日、祝日 (全11回)

ツアー開始時間 14:30~/ 15:30~

予約不要。当日直接、案内所へお越しください。

地域パートナー

「MOTサテライト」の開催期間中に、地域のクリエイティブな拠点でも独自の魅力的なプログラムを展開します。

アンドーギャラリー / アルマス・ギャラリー / gallery COEXIST-TOKYO /

Satoko Oe Contemporary / 無人島プロダクション / リトルトーキョー (しごとバー) /

WILD SILK MUSEUM / GLASS-LAB / gift_lab GARAGE LOUNGE&EXHIBIT / リカシツ /

LYURO GALLERY / Babaghuri / 江東区深川江戸資料館 / 江東区芭蕉記念館 / 清澄白河ガイド /

水辺からアプローチするアートシーンズ 以上 (予定)

開催概要


名称 **MOTサテライト 2017秋 むすぶ風景**
 会期 2017（平成29）年10月7日（土）-11月12日（日）
 会場 清澄白河エリアの各所及び東京藝術大学上野キャンパス アーツ・アンド・サイエンス・ラボ

1) 案内所 江東区三好2-17-11（「清澄白河」駅A3出口から徒歩約6分、B2出口から徒歩約3分）
 「MOTサテライト」の展示やイベント等についてご案内いたします。
 清澄白河エリアへお越しの際は、まず案内所へお立ち寄りください。
 開場日時 木、金、土、日曜、祝日の11:00-18:00

2) MOTスペース ・MOTスペースA（深川資料館通り商店街協同組合事務所 1F）：江東区三好3-8-5
 ・MOTスペースB（グランチェスター・ハウス）：江東区三好3-8-5
 ・MOTスペースC（旧喫茶店）：江東区三好3-4-7
 ・MOTスペースD（三好の旧製本所）：江東区三好2-15-3
 ・MOTスペースE（三好の旧建具屋）：江東区三好2-2-5
 ・MOTスペースF（平野の旧印刷所）：江東区平野1-9-5
 ・MOTスペースG（東京藝術大学 アーツ・アンド・サイエンス・ラボ）：
 台東区上野公園12-8 東京藝術大学 上野キャンパス
 開場日時 木・金・土・日曜、祝日の11:00～18:00
 観覧料 無料

3) MOTスポット 江東区立深川図書館 / Coci la elle / smokebooks / オールプレス エスプレッソ /
 三河屋さんの米置き場/大久保クリーニング / ナンディニ / 御菓子司 双葉 /
 株式会社スタートライン 以上9か所（予定）
 開場日時 上記の各スポットの営業日や営業時間に準じます。
 観覧料 無料

主催 東京都、東京都現代美術館・アーツカウンシル東京（公益財団法人東京都歴史文化財団）
 後援 江東区
 特別協力 深川資料館通り商店街協同組合、グランチェスター・ハウス、KADIST

東京藝術大学社会連携センター、東京藝術大学芸術情報センター、
 東京藝術大学大学院 国際芸術創造研究科、東京藝術大学 古川研究室、
 東京大学 廣瀬・谷川・鳴海研究室
 助成 アンスティチュ・フランセ 
 協賛 公益財団法人 クマ財団
 協力 東京大学地震研究所、デル株式会社、ユニティ・テクノロジーズ・ジャパン合同会社、
 大阪大学大学院情報科学研究科、慶應義塾大学大学院メディアデザイン研究科、
 錯視ブロックワークショップグループ、一般社団法人 江東区観光協会、
 法政大学大学院 地域創造システム研究所、江東区文化観光ガイドの会、株式会社中川ケミカル、
 株式会社 森木ペーパー、ケイ・インターナショナルスクール東京、江東区立深川図書館、
 Coci la elle、smokebooks、オールプレス エスプレッソ、三河屋精米店、
 大久保クリーニング、ナンディニ、御菓子司 双葉、株式会社スタートライン

平成29年度[第20回]文化庁メディア芸術祭協賛事業

お問い合わせ 03-5777-8600（ハローダイヤル） / 03-5633-5860（東京都現代美術館 代表）

企画担当 清澄白河エリア①まちの風景をえがく：小高日香理（東京都現代美術館 事業推進課 企画係）
 清澄白河エリア②体験からめぐる清澄白河：森山朋絵（東京都現代美術館 事業推進課 企画係）
 上野会場：崔 敬華（東京都現代美術館 事業推進課 企画係）

Elodie Royer（カディスト・アート・ファウンデーション）

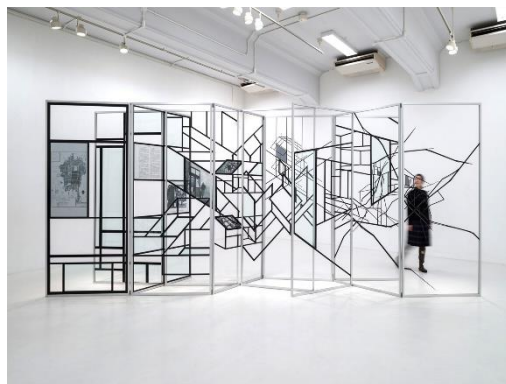
広報 東京都現代美術館 事業推進課企画係 広報班 TEL.03-5245-1134（直通） / FAX.03-5245-1141
 お問い合わせ 中島三保子 m-nakajima@mot-art.jp 不在の場合 森 c-mori@mot-art.jp

広 報 用 画 像

本展の広報用画像として以下の8点をご用意しています。
掲載ご希望の方は別紙掲載申し込み書にてお知らせください。 *1~6は参考図版です。



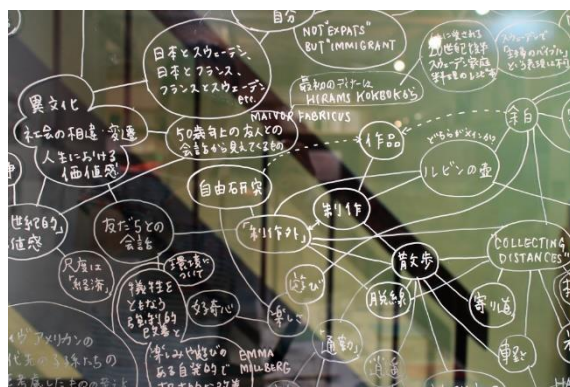
1) 下道基行「見えない風景」ワークショップ(2016)
Photo: Kazuhiro Tsushima
写真提供: Assembridge NAGOYA



2) 鎌田友介《D construction Atlas》(2014)
Photo: Omote Nobutada



3) Atsuko Nakamura 《River》(2013), Chisenhale Studio, London



4) 石塚まこ《自由研究とルビンの壺》(2016)



5) のらもじ発見プロジェクト (2013-) Photo: 池田陽美



6) ミリアム・レフコウィッツ《Walk, Hands, Eyes (a city)》(2009-) フェスティバル・テアターフォルメン2017でのパフォーマンスの様子
Photo: Andreas Etter



7) ウェンデルリン・ファン・オルデンボルフ
《Après la reprise, la prise》(2009)



8) MOTサテライト 2017秋 むすぶ風景 メインビジュアル
*キャプション不要

P R E S S R E L A S E S

FAX . 03-5633-5870

MOT 2017秋 FALL
サテライト
Satelliteむすぶ風景
Connecting Scopes

広報用図版として8点をご用意しております。掲載ご希望の方はお手数ですが本請求書に必要事項をご記入の上、FAX又はメールにてご連絡ください。なお、写真の使用に際し、キャプションは、(作家名、作品名、制作年、コピーライト等)を必ずご表記ください。作品のトリミング、編集、文字載せはお控えください。本展記事をご紹介いただく場合には、恐れ入りますが情報確認の為に校正原稿をお送りいただき、掲載後には、掲載誌(紙)、HPリンク、DVD、CD等を広報班宛てにお送りください。

媒体名：

○印をおつけください

種別： TV ラジオ 新聞 雑誌 フリーペーパー
ネット媒体 携帯媒体 その他

発売・放送予定日：

御社名：

ご担当者名：

Eメールアドレス：

@

(〒 -)

ご住所：

TEL：

FAX：

ご希望の図版番号に をおつけください

- ① 下道基行「見えない風景」ワークショップ(2016)
Photo: Kazuhiro Tsushima 写真提供：Assembridge NAGOYA 参考図版
- ② 鎌田友介《D construction Atlas》(2014) Photo: Omote Nobutada 参考図版
- ③ Atsuko Nakamura《River》(2013) Chisenhale Studio,London 参考図版
- ④ 石塚まこ《自由研究とルビンの壺》(2016) 参考図版
- ⑤ のらもじ発見プロジェクト(2013ー) Photo: 池田陽美 参考図版
- ⑥ ミリアム・レフコウィッツ《Walk, Hands, Eyes (a city)》(2009ー)
フェスティバル・テアターフォルメン2017でのパフォーマンスの様子
Photo: Andreas Etter 参考図版
- ⑦ ウェンデルリン・ファン・オルデンボルフ
《Après la reprise, la prise》(2009)
- ⑧ *キャプション不要

広報お問い合わせ

東京都現代美術館 事業推進課企画係広報班 TEL.03-5633-5860 / FAX.03-5633-5863

中島 m-nakajima@mot-art.jp 不在時は 森 c-mori@mot-art.jp